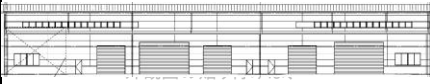
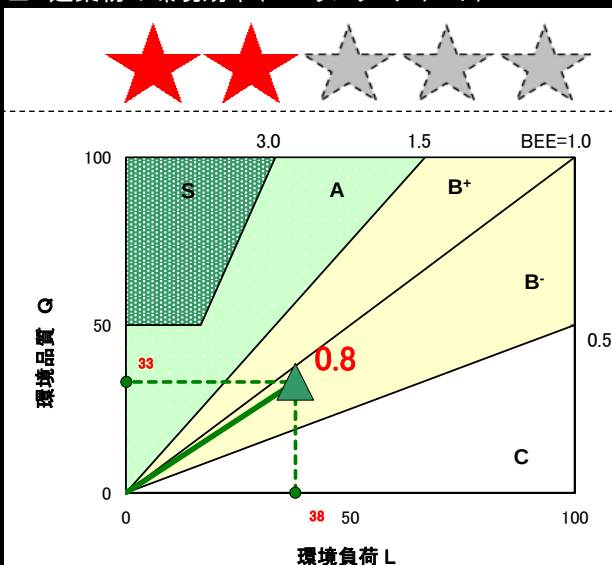


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	株式会社 栗田工業第三工場	階数	地上2F	 【外観図】シートへ貼り付けてください。
建設地	熊本市東区戸島町462番2、463番1	構造	S造	
用途地域	指定なし	平均居住人員	60 人	
気候区分	7地域	年間使用時間	2,112 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年5月10日	
敷地面積	6,836 m ²	作成者	佐竹 剛	
建築面積	2,580 m ²	確認日	2022年5月10日	
延床面積	2,880 m ²	確認者	佐竹 剛	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.8

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

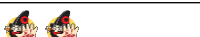


排出率

78%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

			60
	評価点	■熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	67.5	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	41.2	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	47.5	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	74.2	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

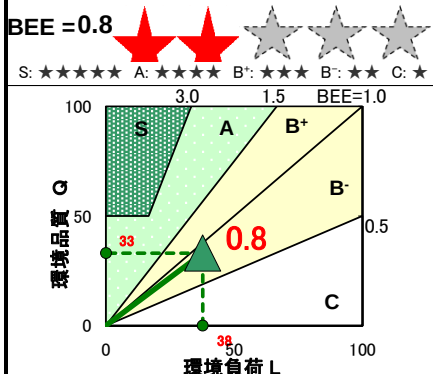
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 栗田工業第三工場	階数	地上2F
建設地	熊本市東区戸島町462番2、463番1	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	60 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,112 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年5月10日
敷地面積	6,836 m ²	作成者	佐竹 剛
建築面積	2,580 m ²	確認日	2022年5月10日
延床面積	2,880 m ²	確認者	佐竹 剛

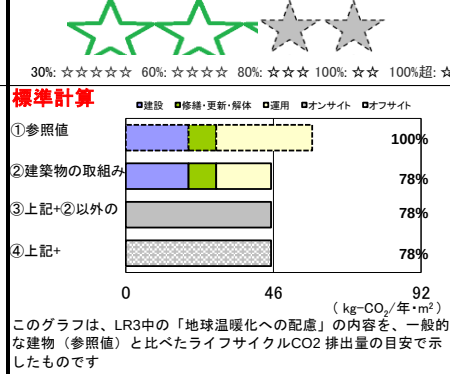


シートの保護を解除してください

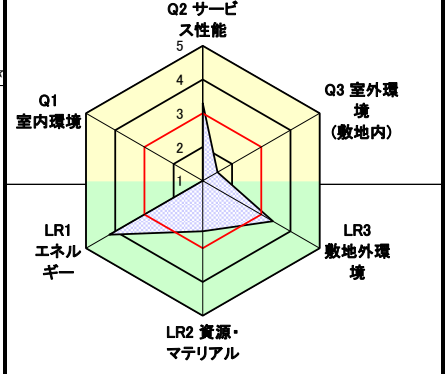
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



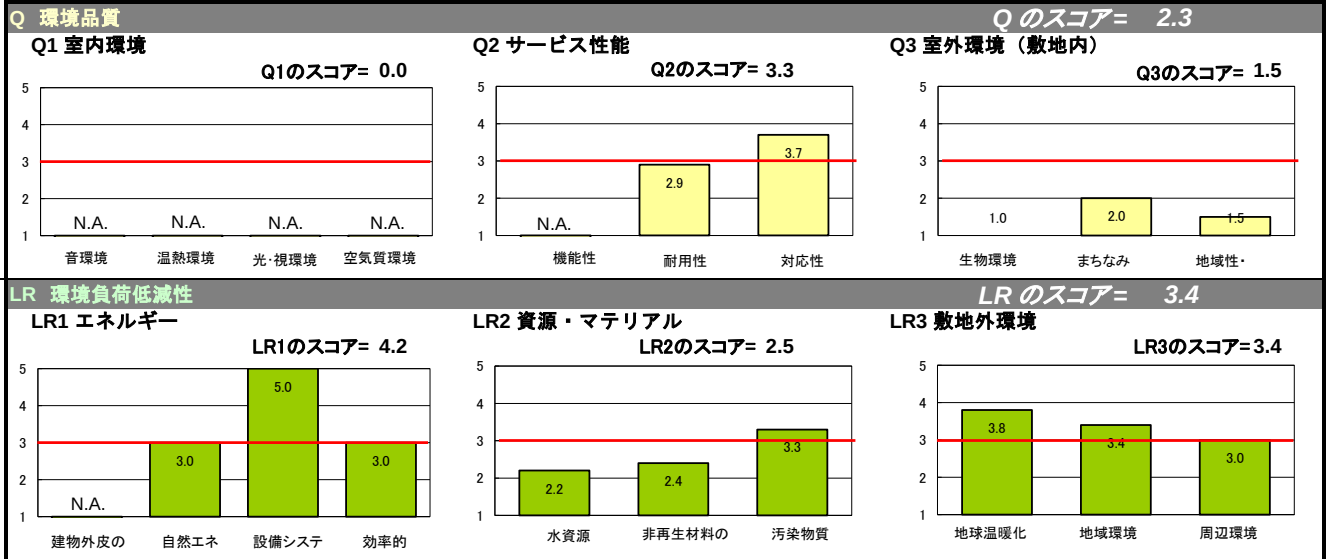
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価		重点事項の評価(レーダーチャート)	
 重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 67.5		評価点 = 60 	
 重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = #####		安全安心で暮らしやすい社会の実現	
 重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 47.5		県の地域資源の有効活用と保全	
 重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 74.2		循環型社会の実現	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
株式会社 栗田工業第三工場

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.3	
Q1 室内環境					-		-	-	
1 音環境				-	-		-	-	
1.1 室内騒音レベル				-	-		-		
1.2 遮音				-	-		-		
1 開口部遮音性能				-	-		-		
2 界壁遮音性能				-	-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-		
1.3 吸音				-	-		-		
2 温熱環境				-	-		-	-	
2.1 室温制御				-	-		-		
1 室温				-	-		-		
2 外皮性能				-	-		-		
3 ゾーン別制御性				-	-		-		
2.2 湿度制御				-	-		-		
2.3 空調方式				-	-		-		
3 光・視環境				-	-		-	-	
3.1 屋光利用				-	-		-		
1 屋光率				-	-		-		
2 方位別開口				-	-		-		
3 屋光利用設備				-	-		-		
3.2 グレア対策				-	-		-		
1 屋光制御				-	-		-		
3.3 照度				-	-		-		
3.4 照明制御				-	-		-		
4 空気質環境				-	-		-	-	
4.1 発生源対策				-	-		-		
1 化学汚染物質				-	-		-		
4.2 換気				-	-		-		
1 換気量				-	-		-		
2 自然換気性能				-	-		-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-		-		
4.3 運用管理				-	-		-		
1 CO ₂ の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御				-	-		-		
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.3	
1 機能性				-	-		-	-	
1.1 機能性・使いやすさ				-	-		-		
1 広さ・収納性				-	-		-		
2 高度情報通信設備対応				-	-		-		
3 バリアフリー計画				-	-		-		
1.2 心理性・快適性				-	-		-		
1 広さ感・景観				-	-		-		
2 リフレッシュスペース				-	-		-		
3 内装計画				-	-		-		
1.3 維持管理				-	-		-		
1 維持管理に配慮した設計				-	-		-		
2 維持管理用機能の確保				-	-		-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.50		-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		C以上を使用		4.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				2.4	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.7	0.50	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.08	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。(ケーブルラック)	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。(ケーブルラック)	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	1.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.57	5.0	0.63	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1	節水		1.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	スタイロフォーム: ODP=0, GWP=3	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率78%	3.8	0.33	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1	大気汚染防止	燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車スペースの確保 等	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・LED照明の使用で、一次エネルギー消費量を低減

Q1 室内環境

- ・評価対象外

Q2 サービス性能

- ・空間にゆとりあり（階高3.9m以上、壁長さ比率0.08）
- ・ケーブルラックや電線管の使用で、構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる

Q3 室外環境（敷地内）

- ・外構緑化指数26.40%
- ・植栽による良好な景観形成
- ・空地率56.7%

LR1 エネルギー

- ・BEIm=0.57（LED照明使用）
- ・エネルギー消費量について、年間に渡り把握できる
- ・運用管理体制は組織化し、責任者の指名がある

LR2 資源・マテリアル

- ・スタイロフォーム：ODP=0、GWP=3
- ・冷媒：ODP=0

LR3 敷地外環境

- ・ライフサイクルCO2排出率78%
- ・駐車スペースの確保あり
- ・光害対策は、ガイドラインのチェック項目をすべて満たす

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 株式会社 栗田工業第三工場

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		60
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				67.5	0.40	27.00
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				41.2	0.20	8.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				47.5	0.20	9.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数